日本とユニセフの協力 60周年

この日本もユニセフから助けられていた時代があったことをご存知ですか？ 今や経済大国に成長した日本へも第二次世界大戦後、ユニセフからの支援が届けられていたのです。日本でユニセフからの支援が始まった1949年から60年が経ちました。

戦後の子どもたちの成長に大きな貢献

ユニセフから日本に初めて物資が到着したのは1949年のことでした。子どもの衣類製造のために原綿が送られ、また子どもや妊娠中の女性、母親に脱脂粉乳が配給されました。障害のある子どもたちには医療器材が提供され、また毛布や医薬品なども届けられました。当時、日本では下痢による脱水症状や呼吸器系の感染症など予防可能な病気が原因で、子ども50人当たり3人が5歳を迎える前に亡くなっていました。ユニセフからの支援は、東京オリンピックが開催された1964年に終了しました。15年間のユニセフによる日本での支援は、総額65億円にのぼりました。

©日本ユニセフ協会
ユニセフから毛布を受け取った日本の子どもたち

当時、ユニセフから届けられた脱脂粉乳の思い出

文京区立誠之小学校 昭和24年度卒　田島徳子さん

脱脂粉乳が唯一の栄養価だったようですが、私は乳製品が苦手でしたのであまり飲めませんでした。六年生の終り頃、給食室が完成して試作品のコッペパンを食べた事をよく覚えてますが、当時は本当に何もない時でなんでもありがたかったものです。後でユニセフからと知りました。今思えば、それは貴重なものでした。

ユニセフ募金の原点は学校募金

©日本ユニセフ協会
街頭募金でユニセフへの募金を呼びかける日本の子どもたち（2008年12月）

その後、ユニセフから支援を受けた日本全国の子どもたちからユニセフへのお礼のお手紙や絵が届き、それらを整理するためにボランティアの女性たちが集まって奉仕活動を続けていました。その後、今度は日本から戦後お世話になったユニセフへの協力を開始することになりましたが、その奉仕活動が日本でのユニセフ支援の民間窓口を担う財団法人日本ユニセフ協会の設立のきっかけにもなりました。同協会設立の1955年には、ユニセフから支援を受けた子どもたちから「自分たちもおんがえしがしたい」という声があがり、全国の学校で児童・生徒に年に1回、任意に10円以上の募金をしてもらう形で「10円募金」の活動が始まりました。それが日本でのユニセフ募金の始まりだったのです。

その後、日本でのユニセフ支援の輪は広がり、2008年度、学校の子どもたちをふくめ、日本全国からは約180億円もの募金をお寄せいただき、世界に36あるユニセフ国内委員会の中で日本の国内委員会である日本ユニセフ協会からのユニセフへの拠出額は、第一位になりました。これは、日本のみなさんからユニセフへの大きなご支援の証です。

2009年10月に開催された日本・ユニセフパートナーシップ60周年記念式典に参加したユニセフのアン・ベネマン事務局長は、日本の世界の子どもたちへの惜しみない支援に感謝の意を表明するとともに、日本がミレニアム開発目標の制定に果たした大きな役割に触れ、引き続き日本のリーダーシップに期待していると述べました。

ユニセフから届いた温かい支援に感謝の気持ちを忘れずに、すべての子どもたちが健康で幸せな子ども時代を過ごし、お互いに助け合って平和な世界を築いていけるようにしたいものです。

©日本ユニセフ協会
日本の子どもたちから世界の子どもたちとユニセフへ向けたメッセージが書かれた記念バナー。60周年記念式典にて

・日本とユニセフの60年・

1946	第1回国連総会で UNICEF（国連国際児童緊急基金）創設
1949	日本へのユニセフ支援開始
1953	新名称「国際連合児童基金」に改名し、恒久機関となる
1955	日本の全国七百町村の母子衛生組織にユニセフ・ミルクが贈られる 財団法人日本ユニセフ協会設立
1956	「世界子どもの日」をきっかけに、第1回ユニセフ協力募金が始まる
1959	伊勢湾台風で被災した母子にユニセフから毛布四万枚が届けられる
1964	日本へのユニセフ支援終了
1965	ユニセフがノーベル平和賞を受賞
1979	国際児童年　ユニセフ学校募金が一億円を突破
1989	「児童の権利に関する条約（子どもの権利条約）」国連総会にて採択
1994	「子どもの権利条約」が日本で批准される
2000	国連ミレニアムサミットで 2015 年達成を目標にしたミレニアム開発目標（MDGs）を採択
2002	国連子ども特別総会開催
2006	ユニセフ創設 60 周年
2009	日本とユニセフのパートナーシップ 60 周年